

令和3年度

# 事業計画書

令和3年4月1日から

令和4年3月31日まで

公益財団法人古紙再生促進センター

## 令和 3 年度事業計画

当センターは創立来、半世紀弱に亘り、適正かつ効率的な紙リサイクルを促進、循環型社会の形成に貢献、公益の増進に資することを通じ、今日の我が国が世界に誇る紙リサイクルシステムを有するに至る、一翼を担ってまいりました。

しかしながら、人口構造の変化やデジタル化に加えて、未曾有のコロナ禍の影響により紙板紙の需要変化が加速化する一方、世界的にも中国の固体廃棄物輸入禁止や、インドやASEAN諸国を中心とする段原紙等の成長加速への対応により、国際的な資源循環の枠組みも変化、我が国の紙リサイクルは大きな転換期の渦中にあります。

当センターとしましても、広く国や自治体、関係業界に情報発信し、我が国の紙リサイクルシステムの維持・向上を目指すとともに、需給両業界のご協力を頂きつつ、変化の時代をチャンスと捉えた事業展開を通じて、この難局に対処してまいります。

### 事業計画策定の基本スタンス

○3年後には半世紀の節目を迎えるセンターは、4大事業 ①古紙品質安定対策 ②広報 ③調査研究 ④紙の資源リサイクル安定化対策を軸に、古紙を取り巻く構造的変化やウイズコロナにおける事業運営の在り方を追求します。

○紙リサイクルのステークホルダー（一般家庭・自治体・事業者⇒回収業者⇒問屋・輸出業者⇒製紙会社）ループの中で、センターは個々の利害を超えた公益性を有する中立的な立ち位置や、個別企業では実現できない対応が強みであることを認識し、事業を遂行します。

○センターが長年に亘り培ってきた「有形無形のリソース」に横軸を通し、新たな視点からの4大事業を遂行、ステークホルダーの実状や課題も踏まえつつ、センター自身もスピード感のある情報発信や事業展開を心掛けます。

○「ウイズコロナの社会」や「SDGs」という新たな価値観も加え、従来の単年度事業の他、長期的視野に立った循環経済下での紙リサイクルのあるべき姿についても検討を開始するとともに、センターに対するステークホルダーの認知、理解度を高め、持続的な ①回収・利用の拡大 ②安定供給・確保 ③古紙品質の維持・向上を目指します。

○コロナ禍の収束が見通せない中で、当初の事業計画が滞る可能性もありますが、その場合でも実施可能な新規案件を弾力的に追加検討します。

## 1. 古紙品質安定対策事業

新たに「個別品質対策」では、基礎的な古紙品質情報を必要とする地方自治体等の環境行政担当者や関係団体のニーズを探り、その啓発ツールの提供を検討します。

### (1) 古紙品質調査事業

全国の製紙メーカーの協力の下、古紙開梱組成調査を実施します。

### (2) 古紙品質情報ネットワークの運用

全国展開した古紙品質情報ネットワークを通じ、製紙工場での品質トラブル情報を他社工場、古紙問屋へ伝達、情報共有化を図ります。

### (3) 個別古紙品質対策

4大禁忌品である「昇華転写紙」、「感熱性発泡紙」、「ロウ引き段ボール」、及び「臭いのついた紙」の混入防止等、禁忌品対策を実施します。また、試みとして禁忌品見本帳の作成、行政等への配布を検討します。

## 2. 広報事業

地方自治体職員や未来の紙リサイクル促進を見据えた、小中学生を対象とした啓発や情報発信に努め、ウイズコロナにおける新たなオンライン形式での事業により、従来カバーできなかった地域での事業拡大を進めます。

また、2019年度に文部科学大臣賞の新規交付を受けた『全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト』については、応募点数の増加等、さらなる内容の充実を図ります。

### (1) 紙リサイクル啓発事業

#### 1) 紙リサイクル研修会

対面・集合型の紙リサイクル研修会の実施は困難であり、地方自治体等の実状を把握の上、オンラインセミナー形式での実施を検討します。

#### 2) 紙リサイクル出前授業

オンライン形式の授業を積極的に拡大、新たに地方自治体との連携による事業周知も進め、業界シニア人材の活用による必要な講師の育成も図ります。

#### 3) 地域広報活動

コロナ影響を踏まえつつ、各地域にて開催される紙リサイクルイベントへの参加等、紙リサイクルの啓発のための広報活動を実施します。

#### 4) 紙リサイクルセミナー

毎年開催の紙リサイクルセミナーを、10月15日（金）に開催予定。今年もライブ配信、録画配信を実施、ステークホルダーに広く周知してまいります。

5) 啓発資料等の配布

センター会報のリニューアルに向けて検討します。また新たにSDGsへの取組についても啓発を開始します。“古紙ハンドブック2021”の発行に加えて、地方自治体担当者を対象としたハンドブック作成も検討してまいります。

6) 紙リサイクルコンテスト

13回目となる「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2021」を通じ、作文・ポスターの優秀作品を選定・表彰、応募点数の増加等内容の充実に努めます。

7) 未利用古紙の掘り起こし・品質確保の啓発

未利用古紙の掘り起こしや古紙品質維持改善のため、一般家庭での古紙排出の在り方の啓発や、新たに全国の会員を対象とする、各界専門家による定期的なオンラインセミナーを開催します。

(2) 紙リサイクル普及事業

1) 顕彰制度

紙リサイクル推進に貢献されてきた集団回収実施団体に対する顕彰は、コロナ影響を踏まえた対応に努めます。

2) グリーンマーク

古紙利用製品の認識向上及び利用拡大を図るため、グリーンマークの普及に努めます。

3. 調査研究事業

国内では、コロナ禍に伴う古紙発生構造の変化や、各地方自治体におけるリサイクル変化等につき調査を行い、海外では中国、東南アジアとの交流や調査事業について見直しを含め、ウイズコロナにおける在り方を検討します。

(1) 国内資源化調査

1) 雑誌・雑がみ・オフィス古紙調査

自治体への啓発資料として、オフィスや事業所のリサイクル状況へのコロナ影響を把握し、情報提供します。

2) 地方自治体古紙関連施策調査

全市区町村(約1,700)に対し、コロナ禍による紙リサイクル変化等について調査、新たに行政の立場への意見具申等を検討します。

3) 新技術に対応した紙リサイクル促進に関する調査研究

リサイクル性の観点で、環境対応の紙・プラ複合素材を注視していきます。

4) 未利用古紙の回収ネットワーク構築

ウイズコロナにおける、ステークホルダーの実状や課題を調査し、未利用古紙の

回収ネットワーク構築を目指します。

5) 外部委員会

経済産業省によるインドでの紙リサイクルシステム構築支援事業への参画や、紙製容器、牛乳容器関連協議会への情報提供を行います。

(2) 海外市場調査

従来の日中古紙セミナーは、中国の固体廃棄物輸入規制による輸出の構造的変化に伴い開催は見送ります。今後は古紙輸入規制後の状況等についての情報交換に焦点を絞る一方、ポスト中国としてベトナムを始めとした東南アジア諸国との情報交流について検討を開始します。

(3) 統計調査

国内外における古紙需給統計等を収集し取りまとめを行い公表します。

4. 紙の資源リサイクル安定化対策事業

古紙回収量が国内消費量を上回る我が国において、安定的な需給バランスをベースとした持続的な回収システムの維持は社会的にも大きな課題です。国内では少子高齢化に伴う人口構造変化、都市集中・地方過疎化、デジタル化が進み、また世界的にはサーキュラーエコノミーを始めとした循環経済推進のうねりが高まる中、国内・外の中長期的な課題整理に向けて検討します。

(1) 古紙余剰対策事業

1) 紙リサイクル維持対策（備蓄事業）

紙リサイクルシステム維持のため、余剰が生じた場合の対策を講じます。

(2) 紙の資源リサイクル安定化施策事業

1) 海外調査研究

日本の紙リサイクル安定化のため、インドやASEAN諸国の紙リサイクルの実態把握に努めるとともに、環境規制情報や日本古紙への品質ニーズ等について調査します。

2) リサイクル方法の調査研究

古紙の製紙原料以外の用途に関する調査を実施します。

3) 紙リサイクルの維持

中長期的、持続的な紙リサイクルの維持に向けて課題の整理を開始します。

5. その他の事業（地区委員会活動事業）

全国8地域の委員会において、各地域の独自性を考慮し、またコロナ影響も踏まえて研修会等の事業を実施します。